

そんな祖母は耳をとり、レビー小体型士の認知症になってしまいました。

昔の性格はほとんどというほどなくなってしまい優しい祖母は消えてしまいました。

自営業をやりながら父と母は大変だったし、私は病状も良くなりはず、デイサービスを

利用しながらみんなが祖母の介護を一生懸命やりました。

祖母にも精神的な波があり、ニコニコしている時もあれば、暴言がひどく、あんたなんか

死んだ方がいいと、早く、悲しい言葉等を言われ、そうだった日々が続くと、精神的にも王

し王い、上夜中まで付きそえないために施設に祖母を泊まらせてもらったりと、みなさんに

助けてもらいながらのり越えることができました。毎日本当に大変な日々でした。

おはあちゃん子の私は祖母と離れたくなくて、大変でもお世話ができるまで今までの

因に返しがしたかったです。

おとみんなが協力してきましたが、祖母も衰弱してしまい、お医者さんの力を借りる

事となりました。行ける時はお見舞へ行つて、祖母はしゃべれないけど毎日私が

歌をうたうと目を開けて聞いてくれました。その顔が今でも忘れられませんが、

祖母は負けず嫌いなので、最後の日が来るまで一生懸命生きてくれました。

そんな祖母を誇りに思います。